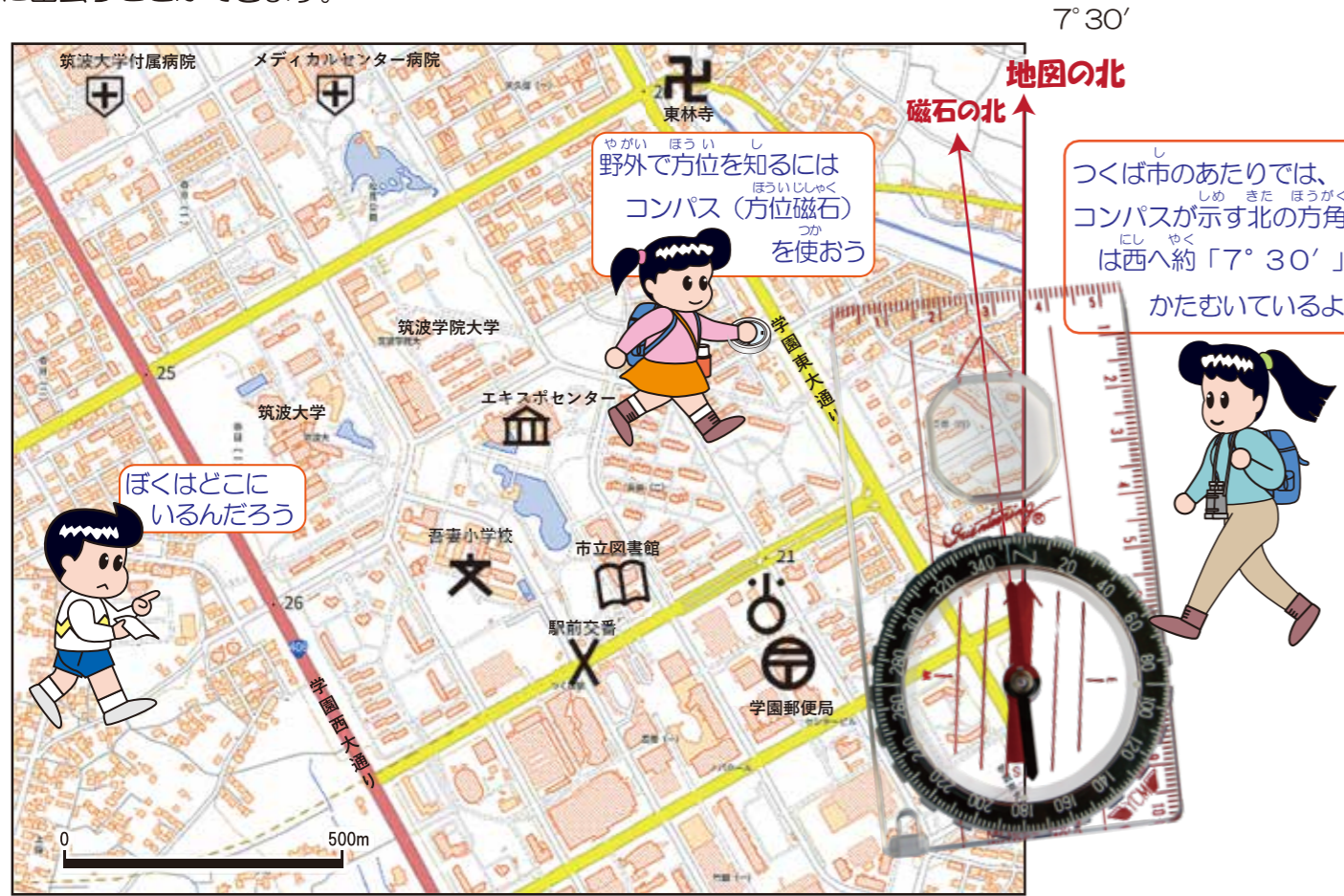


地図をもって野外に出てみましょう。地図とまわりを見くらべながら歩いて行けば、楽しく、新たな発見に出会うことができます。



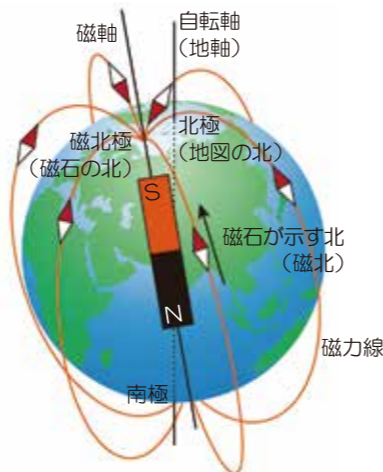
地図を見るときには安全な場所で見よう
交通事故には注意してね!

野外に出たら

- ①自分が今いるところを地図のうえで確認しよう
- ②まわりのものと地図を見くらべて、調べたいテーマがどうなっているか観察しよう
▶たとえば、建物などと地図記号をくらべてみたり、どのような地形か調べたりする

コンパスが示す北と地図の北

コンパスを使うと北の方角を知ることができます。これは、地球が磁石の性質を持っているからです。しかし、地球の磁石の北は、地図の北である北極（地球の自転軸上）から少し離れています。このため地図の北から見るとコンパスの北（磁北）は少しずれます。



※ずれの量は場所によって異なります。

地図を使うときには
注意が必要なんじゃ

■地形と自然災害にはとても深い関係がある

日本は、地震とともに災害をはじめ、火山災害、地すべり・土石流・崖崩れなどの災害、河川の氾濫・高潮などの水害など、自然災害が多く発生する国です。

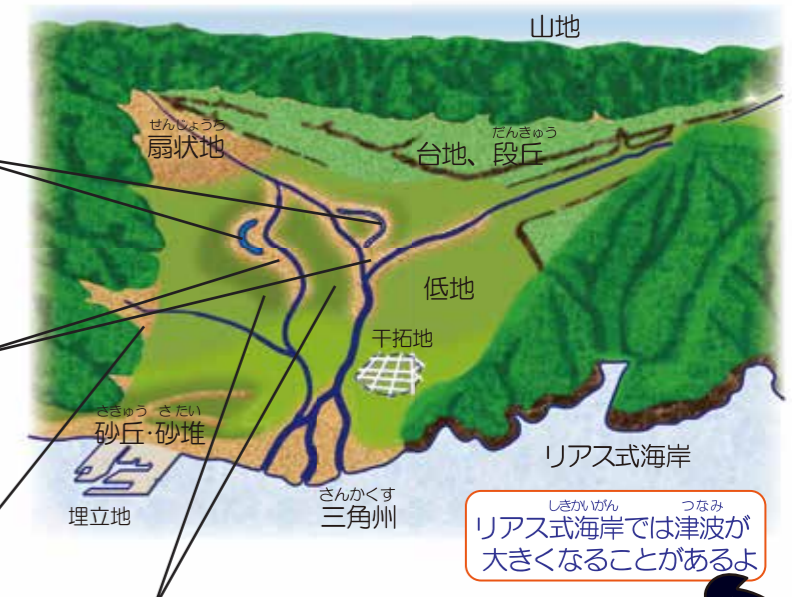
こうした災害は、地形ととても深い関係があります。災害がいつどこで起こるかはわかりませんが、その土地の特性を知っておくことは、災害から私たちの生命や財産を守るのに役立ちます。

その場所が山地か台地か、低地か、同じ低地の中でもまわりよりも高く乾燥している土地か、低くいつも湿っているような土地か、火山や海岸に近い土地か、あるいは人工的につくられた土地かなどによって、起こりやすい災害を予測しておけば被害を最小限にとどめることも可能となります。

旧河道・三日月湖
過去に川が流れていた跡。もとの川が小さな湖や池として残ったものは三日月湖と呼ばれる。水はけが悪く、洪水などの被害を受けやすい

自然堤防
洪水の時に上流から運ばれてきた石や砂が川のまわりに積もってきた土地。周辺よりもやや高く、生活水も得やすいので、昔から住宅地などに使われていることが多い

山麓堆積地・急な斜面
山麓堆積地は斜面の下の方や谷底などに、崩れた岩や石がたまってできた地形で、山などの急な斜面とともに大雨による土石流や地震による崩壊などの危険が予想される



リアス式海岸では津波が大きくなることもあるよ



広島市の土石流災害 (2014年)

後背低地
川から見て自然堤防の後ろ側にあたり、自然堤防や山地・台地などに囲まれた浅い低地で、水はけが悪く、洪水時には川からあふれた水がたまりやすく、水につかっている期間も長い。また、軟弱な地盤で、地震のときには大きくゆれたり、液状化被害が起こりやすい



茨城県常総市の水害 (2015年)



地図を見ると土地のようすがよくわかるのじゃ



※治水対策を進める目的のため、詳細な地形分類や河川工作物が盛り込まれた地図です。

干拓地・埋立地
遠浅の海や湖などの一部を排水して陸地にしたものが干拓地。水部に土砂などを埋めたり、湿地や窪地に盛土して造成したのが埋立地。軟弱な地盤に起因する災害や、盛土の斜面が崩れるなどの災害が起こることがある